

九条はらまち

福島県「はらまち九条の会」会報 No.255

2015(平成27)年 1月17日(土)発行

●「ニュートンはなぜ万有引力に気づいたのか」と考古学者江上波夫教授が質問すると、ある学生が「リンゴが木から落ちるのを見たから」と答えました。すると「いつもそのことを考えていたからですよ」と微笑して答えたそうです●何事も「いつも考え、思い、願い、訴え続け、行動していること」で、やがて道が開け、成就したり達成できることになるのでしょうか●総選挙のその日だけでなく「毎日が投票日」かもしれません。平和のために日々の準備が大切です。



3. 11東日本大震災・原発事故の体験・その思い 40

「朝日座を楽しむ会」という事

震災を乗り越え「朝日座」は国指定有形の文化財に
南相馬市原町区・朝日座を楽しむ会代表 小畑 瓊子さん(会員)



■ 関東大震災の1923(大正12)年に建てられ、「無線塔」と並んで原町のシンボルの映画館「朝日座」は、1992年に閉館し、大震災での損壊もありましたが、2013年11月、相双地区で初の国指定の登録有形文化財になりました。さらにドキュメンタリー映画『ASAHIZA 人間はどこへ行く』も全国的に注目を集めています。(2010年3月には、私たち「はらまち九条の会」が主催して『いのちの山河』映画上映会を開催しています)

■ 昨2014年「朝日座を楽しむ会」が結成され、新たな再生の道を歩みつつあります。その結成のいきさつを会代表の小畑さんに、体験や震災のこととともに綴っていただきました。

昨年12月14日、「朝日座」で『壤晴彦と読む～和の世界～』という朗読会があった。壤さんは知る人ぞ知る蜷川幸雄演出のシェイクスピアの舞台で主役を演じていた俳優である。本格的な照明、音響。「朝日座」にとって久しぶりの舞台ではなかったろうか。

宮城県出身で芝居や映画好き

元々、私は原町出身ではない。仙台市から国道4号線を北上する事20kmの片田舎で育った。大好きな船形山が正面に見える所である。登下校に寄り道をして遅刻をしても怒られた記憶もないから、良き場所、良き時代に育ったと思う。

高校生の頃には、東京へ現代演劇協会の劇団の芝居を見に行っていた。一番最初に見たのは、読売ホールでの山崎努主演『ドン・ジュアン』であった。不思議と鮮明に覚えている。長じて仙台で仕事をするようになってからも舞台を見には通っていた。まだ新幹線もない時代だったが。

仕事先が一番丁の南端だったので「名画座」が近くにあって。そこに通うようになって映画も少しは馴染みになった。そこでは洋画が主。他の映画で確か夜通して長編を見た記憶もあるが、映画は私にとって身近なものではなかった。

原町に住むようになって、子どもを見に連れて行ったという思い出も余り無い。子どもたちは友達と見に行っていたようだが。そのような私が何でここまで「朝日座」に係わるようになったのか。

「原町おやこ劇場」も映画は主でないし、ただ映画も文化、映画は映画館で見るのがベストとは思っていた。事実、「おやこ劇場」での映画鑑賞は「朝日座」でおこなった。

劇場で活動していた頃、商店街の方々が朝日座の保存に向けての活動をしているのは知っていたが、なるべく係わらないようにしようと思っていた。何故か。所有者と管理者の関係が良く分からなかったからである。

「楽しむ会」成立のいきさつ

平成8年、「生涯学習フェスティバル福島県大会 南相馬地区大会」が開催されることになった。その準備のために、当時の生涯学習課が関わる人たちを集めて連続の講習会があった。誰も来ないのでは・・・と心配して知り合いの女性たちと三人で参加した。その講習会を取り仕切っていたのは、まちづくり関係のNPO法人で全国各地の人たちがメンバーとなっている専門家集団だった。彼らは事前に地域の地域資源と言われる建物の下見をし、どうも「朝日座」に的を絞っていたように思われる。

講習会の蓋を開けてみれば、老若男女多くの方の参加があった。その中でお年を召した方々は殊の外、「朝日座」に熱心な発言をなされていた。危ない、危ないとてなるべくこれも近づかないようにしていたのだが、結局終盤頃は観念し一緒に参加した女性共々、(裏面へ)



▲2013年、登録有形文化財決定の祝賀会

「あなた達がやるというならやる」ということにして講習会最終日に、保存を考えていく会を立ち上げるべく、会議のご案内を出席者に差し上げた。その会の当日、お出で下さったのが前会長の山城雅昭さんただ一人であった。

その日、会の名前を「朝日座を楽しむ会」に決めた。守る会・遺す会には絶対したくなかった。「朝日座」の存在とそこでやる事業を楽しむという会名。あまりしんどそうな名前は、なるべく避けたかったのだ。そうでなくとも、しんどくなるのは分かっていたから。

100名超で発足 しかし大震災で

「楽しむ会」は2008年3月に発足。初年度は市から助成金を貰い、「朝日座」の借用代に充てた。県からのサポートも受け、学ばせても貰った。県の外郭団体の助成金を貰いながら、会員を募り（遺せと声高に仰っていた方には最後までお入りいただけなかったが）、初年度は100名を超える正会員・賛助会員でスタートできた。

何とか細々と活動していたが、2011年3月11日の震災により、活動停止のやむなきに至った。震災後、多くの方が避難されるといふ混沌とした状況になった。人はいない、娯楽は無い！先の見えない状況が続いていた。

震災後「いつでもで夢を」上映会開催

避難所にはいろんな方が慰問に来られたが、在宅の人たちは中々行けない。そこで自己責任のもと「朝日座」で上映会をすることにした。6月12日、映画『いつでも夢を』の上映である。いろんな立場の人たちのご厚意に甘えたものであったが、やってよかったと今でも思う。

相双地区で第1号の有形文化財に

その後も市民の方や、全国からのいっばいのご厚意を頂きながら、念願であった朝日座の屋根を直す事も出来た。県から修理費の半分、皆様からのご寄付で残額の二分之一を賄うことが出来た（まだ借金が残っているけれど）。ただ修繕するのでは何の意味もないと思い、従前どおりの姿にすることで、国登録文化財（有形物）にも出来た。相双地区第1号である。ドキュメンタリー映画も出来、今全国の方々にも少しずつではあるが知って貰っている。

「豊かな南相馬」と思える街に

市民の皆様が避難先におられても、そういえば「朝日座」があったよねと言ってもらえれば嬉しい。今後、「朝日座」を文化財として活かすと共に、他の地域資源と言える建物の見直しを行政と共にしていき、「何もない南相馬」ではなく「豊かな文化・生活空間がある南相馬」と思えるような街にしていきたいと思う。それがまた「朝日座」を楽しむことになるから。

皆さん、「朝日座」と「南相馬の地域資源」を一緒に楽しみませんか！

（2014年12月記、おばたけいこ）

布川家三代館主が守り残した

南相馬に朝日座あり

二上英朗さん(会員・福島市)の投書

二〇一三年十一月二十三日 福島民友より



南相馬の朝日座
90年経ての栄光

どによって、その真価が認められたのだ。

福島市

二上 英朗 60

南相馬市歴史

専門調査員

「国登録 復興へ朗報」

という大きな見出しが本紙社会面に躍った。

南相馬市原町の名物

朝日座は、関東大震災の年の7月2日に芝居小屋

兼活動写真館としてオープンしたが、90年目に大

正ロマンの薫る国の登録

有形文化財として内定、栄光を受けた。

地域のシンボルとして

愛され、住民運動のパワーと、福島大学清水ゼミ学生らのボランティアな

銀幕に歴史の幕を20年前に閉じたが、80周年には館主布川雄幸氏と私の共著で「朝日座全記録」という500頁を超える大冊の記念誌を出版した。

その後文化庁の学術的な調査と県補助によって、屋根や内外壁に全面的な修復が施され、後世に文化遺産として輝かしい歩を刻んだ。

南相馬に朝日座あり。住民運動の成果が、復興の希望にどれほど大きな励みになることか。3代で館を守ってきた布川一族の献身に感謝し、南相馬市民とファンに、おめでとうと祝福のメールを送りたい。